
男女共同参画社会推進状況調査

グループインタビュー実施報告書

平成 28 年 3 月

I 実施概要

1. 目的

男女共同参画推進事業調査グループインタビューは、日立市男女共同参画計画の策定に向けた基礎的資料を収集するため、家庭や子育て、教育、就業分野等の属性を対象に実施した。

2. 実施対象及び日時

| 日 時 | 基本的な属性 |
|------------------------------------|-------------------------|
| 平成 27 年 12 月 7 日 午前 10 時～ | 20～30 代の子育て世代の女性 |
| 平成 27 年 12 月 12 日 午後 12 時～ | 30～40 代の小学生の子を持つ父親 |
| 平成 27 年 12 月 15 日 午前 11 時 30 分～ | 大学生（20 代前半の未婚の女性） |
| 平成 28 年 1 月 7 日 18 時～ | 20～40 代の企業経営者(男性) |
| 平成 28 年 1 月 12 日 午後 1 時 30 分～ | 起業経験を持つ女性 |
| 平成 28 年 1 月 22 日 午前 10 時 30 分～ | 大学生（20 代前半の未婚の男女） |
| 平成 28 年 1 月 22 日 午後 7 時 30 分～ | 40～70 代のコミュニティ活動をしている男女 |

3. グループインタビューの実施方法

グループインタビューは、全体で1時間程度で受託者の進行により自由討議形式で実施した。なお、内容については、共通テーマの他、属性を考慮し設定した個別テーマについてもインタビューを実施した。

対象別ヒアリングのポイント

| 対 象 | 対象別ヒアリングのポイント |
|------------|---|
| (1)子育て中の女性 | ア 女性が働くことについてどう思うか。(特に子育て中) イ 勤めていたときに、差別や不利益を受けたことはあるか。 ウ 勤めている場合は、仕事と子育てをどのように両立させているか。 エ 今後就職する希望はあるか。 オ 就業するときにネックになることは何か。 カ どのような働き方が理想か。 キ 就職以外に活動したいことはあるか。 ク 配偶者は子育てにどのようにかかわっているか。 |

| | |
|------------------------------------|--|
| <p>(2) 30～40 代の小学生の子を持つ父親</p> | <p>ア 女性が働くことについてどう思うか。(特に子育て中)</p> <p>イ 家庭内で家事や育児の役割分担をしているか。</p> <p>ウ 男性が家事や育児を積極的に行おうとするときに障害になることは何か。</p> <p>エ もっと男性が地域活動に参加するにはどうしたらいいか。</p> |
| <p>(3) 40～70 代のコミュニティ活動をしている男女</p> | <p>ア コミュニティの活動において、男女の役割の違いはあるか。</p> <p>イ コミュニティ等において女性がリーダーシップをとることに抵抗はあるか。</p> <p>ウ 地域活動を活発にするためには、どんな人材がほしいか。</p> |
| <p>(4) 大学生(20代前半の未婚の男女)</p> | <p>ア 仕事と結婚についてライフプランをもっているか。</p> <p>イ 女性が働くことについてどう思うか。(特に子育て中)</p> <p>ウ 会社等で管理職など責任ある職務につくことを希望するか。</p> <p>エ 配偶者に、会社等で管理職など責任ある職務につくことを希望するか。</p> <p>オ 社会における男女差を感じたことはあるか。(就職活動等)</p> |
| <p>(5) 20～40 代の企業経営者(男性)</p> | <p>ア あなたの事業所に女性従業員はどれくらいいるか。 (正社員、パート等?)</p> <p>イ あなたの事業所に女性管理職はいるか。</p> <p>ウ 男女の雇用条件に差はあるか。(差がある場合はなぜ?)</p> <p>エ 女性従業員に求める役割は男性従業員と違うか。</p> <p>オ 女性の活躍推進に関する事業主行動計画を策定する予定はあるか。</p> <p>カ 女性管理職を積極的に増やしていきたいと思うか。 女性を管理職につかせるための取組(研修等)をしているか。</p> <p>キ 女性従業員の産前産後休暇・育児休暇・介護休暇をどう思うか。 どう対応しているか。利用者はどのくらいいるか。(退職者はいるか)</p> <p>ク 男性従業員の育児休暇・介護休暇をどう思うか。 どう対応しているか。利用者はどのくらいいるか。(退職者はいるか)</p> <p>ケ あなた自身や家族は、家事や子育てを分担してきたか。</p> <p>コ 従業員のワーク・ライフ・バランスについて配慮しているか。 (家庭生活等を優先させた働き方を認めるか)</p> |
| <p>(6) 起業経験を持つ女性</p> | <p>ア 事業上や起業するにあたって、女性ゆえに苦労したことはあるか。</p> <p>イ 女性であることで不利だと感じたことはあるか。</p> <p>ウ 勤めていたときに、差別や不利益を受けたことはあるか。</p> <p>エ 仕事と家庭生活の両立をどのように実現させたか。</p> <p>オ 女性が活躍できるためには、どのような環境整備が必要か。</p> |

II 実施結果

1. グループインタビュー結果の概要

| 項目 | 意見の概要 |
|-------------------------|--|
| 男女共同参画 について | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> だいぶ変わってきているが、給料の面や働き方など、平等でない部分はまだある。 <input type="checkbox"/> 男女共同参画の周知はされつつあるが、就職後の待遇が確立されていない。就職後の昇給に男女差があるという内閣府のアンケートをみた。 <input type="checkbox"/> 社会進出したい女性が阻害されないならばよい。 <input type="checkbox"/> 男女平等ということについては、職場環境などによっても変わる。 <input type="checkbox"/> 男女でできる役割が違うので、男女平等は必要ない。 <input type="checkbox"/> 事業主として、業務内容による男女の特性に配慮して採用している。 <input type="checkbox"/> 政府で男女共同参画において目標値を定めているが、数値目標については疑問に思う。 <input type="checkbox"/> そもそも違うのだから、差があっても良いと思う。 |
| 男は仕事、女は家庭 という考え方について | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 昭和までの古い考えだと思う。 <input type="checkbox"/> 男女それぞれの得意分野があるので、それぞれが得意なことをやれば良いと思う。 <input type="checkbox"/> 子育てについては、両親に責任があるので、単に分担ではなく父母ともに100%でやる必要がある。 <input type="checkbox"/> 外で働いている人が偉いというような考え方がある。 <input type="checkbox"/> 子どもとの関係からも、女性が家庭にいる方が良い。 <input type="checkbox"/> 子どもができるまでは一緒に働いて、子どもが生まれたら奥さんに家事育児をしてほしい。 <input type="checkbox"/> 男女共同参画といっても、家庭が基本になっていなければならない。 <input type="checkbox"/> 女性は外に出てどンドン働いて良い。自分で選択するべき。 <input type="checkbox"/> 一律の方向性ではなく、働きたい人、家にいたい人、それぞれが思うようにできれば良い。 |
| 女性の活躍推進 について | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 子育てと介護があるので、現実的には無理。 <input type="checkbox"/> 女性が子育てと仕事を両立するためには、雇い主側の理解が重要。 <input type="checkbox"/> 女性が働く環境は整っていないと思う。 <input type="checkbox"/> お金だけが目的でなく、自分のしたいことをして満足したいと思う。自分の欲しいものは自分で買いたい。 <input type="checkbox"/> 生活にメリハリをつけるためにも働きたい。 <input type="checkbox"/> 地区別にきめ細やかな対応ができる託児制度があれば良い。 <input type="checkbox"/> 会社に託児所を設けるなどの環境整備が必要。 <input type="checkbox"/> シングルマザーをもう少し優遇する措置が必要。 <input type="checkbox"/> 男女関わらず優秀な人がいる。環境を創るべきだと思う。 |

| | |
|--------------------------|--|
| | <input type="checkbox"/> 女性が社会に出て活躍することについては、特に問題は感じない。 <input type="checkbox"/> 女性がいた方が職場も良い。 <input type="checkbox"/> 育児休暇を取得した後退職することがあるが、事業主としては困る。 <input type="checkbox"/> 働き手が減っているのに女性に頑張ってほしいが、あまり手厚くやると中小企業にとって雇いにくい環境になってしまうかもしれない。 <input type="checkbox"/> 女性が働くことに問題はないが、若者の力を発揮する方にも力を入れる必要がある。 <input type="checkbox"/> 女性が上に立つことに抵抗を感じる男性がまだ多くいると思う。 <input type="checkbox"/> 働きたい女性を応援したいという気持ちはあるが、子どもは母親を求めるという点で、女性が働くことには永遠の課題があり、そこをどう克服するかが問われる。 |
| 男性の育休制度について | <input type="checkbox"/> 男性の育休制度は、周りが取っていないと取りづらいという雰囲気がある。 <input type="checkbox"/> 育休取得、有給取得については、会社や職場の理解が不可欠。 <input type="checkbox"/> 育休中の給料の保証が欲しい。 <input type="checkbox"/> 産休・育休の間に人を確保する必要があるので、支援制度が欲しい。 <input type="checkbox"/> 男性で昨年育休を取った人は1例だけで、話題になった。 <input type="checkbox"/> 男性に育児休暇が必要か疑問。 |
| 男女のワーク・ライフ・バランス、地域参加について | <input type="checkbox"/> 40代ぐらいまではばりばり働いて、その後はバランスを取って働きたい。 <input type="checkbox"/> 昔PTAは母親の行事であったが、今はそうではなくなってきている。 <input type="checkbox"/> 子どもを中心に活動方針を決めることが大事。 |
| 育児と仕事の両立のために必要なこと | <input type="checkbox"/> 職場の理解が不可欠。 <input type="checkbox"/> どうしても休めない時に、病児を見てくれる施設が身近にあればよい。 <input type="checkbox"/> 育児休暇取得後、ブランクができないよう在宅ワークができる制度。 |
| 家庭内での役割分担 | <input type="checkbox"/> 無理に分担するのではなく、大変なときに手伝ってくれればよい。 <input type="checkbox"/> 子どもが小さいころは手がかかるので家のことを全部できない。 <input type="checkbox"/> 将来結婚したら家事分担をしたい。 <input type="checkbox"/> 勤めていた頃はできなかった。定年後家庭の仕事を積極的にやっている。 <input type="checkbox"/> 家事は、自分が食べるものは作るが片付けはしない。他は一切しない。 <input type="checkbox"/> 母の介護があったので、その間のお昼の準備や洗濯は夫がやっていた。 <input type="checkbox"/> 土日はやるが、平日は遅くなるとやりたくない。 |
| 男女差を感じたこと | <input type="checkbox"/> 今年から就職するが、続けられるからという理由で、能力が同じなら男性を取るといわれた。 <input type="checkbox"/> あまり普段の生活では感じない。 <input type="checkbox"/> 男性・女性しか働いてはいけないと感じるような、仕事をなくしていった方がよい。 <input type="checkbox"/> 女性の首相があまりいないことから、根底にはトップは男性という意識があることを感じる。 <input type="checkbox"/> 女性専用車両など、差をなくすために作られた制度がき過ぎていて逆効果な気もする。 |

2. 各主体の記録

| | |
|---|-----------------|
| 実施対象 | 20～30代の子育て世代の女性 |
| 日時 | 平成27年12月7日 10時～ |
| 【男女共同参画について】 <p>○女性は、家事で休みもない感じもするが、父親は外でいろいろ大変だと思う。度合いは違うが協力し合えば良いと思う。</p> <p>○男性は外で仕事、女性は家のことをやるという固定観念がある。子供が小さいころは手がかかるので家のことを全部できない。どうしても子供優先になるので、洗い物とかやって欲しいことがあるが、きちんとやってくれずいらっとすることもある。</p> | |
| 【男性は仕事、女性は家庭という考え方について】 <p>○来年から働こうと思っている。フルタイムを希望しているが、そうなったら家のことを全てはできない。今は女性が外で働くことが当たり前になっているが、家事分担がそのままどやはり負担。一方で、家事にはやり方もあるので、あまりやって欲しくないとも思う。炊事洗濯ではなく、例えばゴミ捨てだけとか。むしろ、家事よりも子供を見て欲しい。子どもを連れて出かけてくれるなど、一人の時間を作ってくれれば、家事の後一息つけるのでありがたい。</p> <p>○男性は仕事、女性は家事と決めることはないが、誰かがやる必要がある、男女それぞれの得意分野があるので、平等でも同じにはできない。絶対男性と女性が同じ事を同じレベルでやる必要はなく、それぞれが得意なことをやればよいと思う。</p> <p>○最近、政府などでも男女共同参画において目標値を定めているが、目標値があれば良いのではなく、得意分野を活かしながらやればよい。逆に目標値を設定することには疑問がある。</p> <p>○無理に分担するのでなく、大変なときに手伝ってくれればよい。家事のやり方が違うので面倒なこともある。</p> <p>○現在自分では働いていないので家庭ではそんなに不満はない。でも学校行事など子供のことはもっとやって欲しいと思う。</p> <p>○現実的には、男性が働いていると学校のことは無理ではないか。だから、家事と仕事は分担してやればよい。一方で、子育てについては両親に責任があるので、分担でなく父母それぞれ100%でやる必要があると思う。</p> <p>○男性は、同じ部屋にいても子どもと遊ばないことがあると聞く。子供との遊び方、接し方が分からないのではないか。</p> | |
| 【女性の活躍推進について】 <p>○働く理由としては、子育てが終わるのでその後の生き甲斐として働きたい。お金もないと遊べないので、目的は自己実現と収入を得ること。</p> <p>○外で働くのが好き。ただ、小学校に入るまでは子供の側にしようと思っていたので仕事を辞めた。小学校に入ったら働く。</p> <p>○働くとしたら、理想はフルタイムで夢をもう一度という気持ちもある。一方で、現実の選択としては子育てや親のこと等があるのでパートかなと思う。</p> <p>○自分のキャリアのことも考えたいが、子供の保育と親の介護があるので、現実的には無理。</p> | |

- 病児・病後児保育については、施設があるからといって預けられる訳ではない。健康な子どもを預けることはできるが、病気の時や親でしか支援できない精神的なこと。特に後者は誰にも任せられない。祖父母が頼りになり近くにいればできるが、施設があればいいという訳ではない。
- 女性が子育てと仕事を両立するためには、雇い主側の理解が重要だと思う。「子供の事情で休むことを理解できる事業主」がいるのであれば働きやすい。事業者に対する啓発が必要ではないか。
- 子供が小さい人を雇う場合にその従業員の人件費の補助等、雇い主が雇いやすい制度があり、子どものために休むことが、事業者や同僚等にも理解される環境が重要。子どものことで休むのは、一緒に働いている人に対して心苦しい。そういうことで働けない人もいる。
- 年間何日間かは、子供のために休めるような制度と、母親しかできないことを理解してもらい休める制度が重要。パートの時給を上げることより、空いている時間に気兼ねなく働ける方がよい。
- 自営業の場合は、ある程度の裁量が効くので幼稚園行っている合間に働くことができる。また、祖父母がやってくれることもある。逆にいないときは連れて行くしかない。
- 子育てが終わった後に働くということのイメージは、バリバリ働くのではなく、近所の小さな会社で働くことか、自宅で働くこと。
- 何時までやらなくてはいけない。今日中に仕上げる等ではなく、時間に縛られない仕事の仕方があるとよい。
- PTA活動の中でそれぞれが持つ能力を感じたが、それを活かす機会がないのは残念。

【男女のワーク・ライフ・バランス・地域参加について】

- 将来的に(主人が)独立する予定なので、将来的には手伝って欲しいと言われている。それまでは自分で自由に働きたい。
- 父親の会社の育児休暇制度がどのようなものかあまり分からない。男性自身も分かっていないかもしれない。周りが使っていなかったら使いづらいという雰囲気もあるかもしれない。
- 現実には、育児休暇に限らず、有給休暇をとるのもやっという会社が多いのではないか。有給休暇の取得は、会社によっては、仕事に対する意欲が低いと思われるという雰囲気もある。会社や職場の理解が不可欠。
- 以前の勤務先では、有給休暇を使うと賞与が減らされるというところもあった。育児休暇を義務化しても、企業の理解が必要で現実には理解があるとは限らない。
- 企業や事業者に対して休むことは悪ではなく、休みは仕事を120%やるために必要という意識を持たせることが必要。
- 大企業は、育児休暇制度だけでなく、誕生日休暇、お祝い金などもあるが、大きい企業だけ。
- 男性の地域活動は、学校通しての活動が多い。
- 大沼地区は地域活動が盛ん。高齢者が中心にやっているが、仕事をしているので地域への参加は仕事をリタイアしたあとでもよい。休みの日に参加するのは良いがわざわざ休むほどでもない。

【その他】

- 主婦も高齢者と一緒に、バリバリ働くということではない。
- 時間がフレキシブルな仕事が増えると良い。シェアする働き方もある
- 政策として給付金を配分するよりも、女性が働ける環境を充実させることが必要。

| | |
|---|--------------------|
| 実施対象 | 30～40代の小学生の子を持つ父親 |
| 日時 | 平成27年12月12日 午後12時～ |
| <p>【男女共同参画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○男女平等は必要ないと思う。家庭でも男性、女性できる役割が違う。同じ物差しで測ると弊害が出るので、あまり平等を突き詰めるのではなく、父母ができること、やりやすいことを進めていく方が良い。異性に同じことを求めるとうまくいかない。 ○家庭に入ったという場合は理解できるが、独身の女性に対しての言葉にはあてはまるか。会社のこととは違うのではないか。会社では不平等感はある。 ○自営という中で、会社をみると、女性が平等に扱われていないかというところではなく、優秀な女性は技師として働いて部下もいる。女性が不平等とは限らない。 ○自分ができる仕事、奥さんができることは役割がある。家庭については同じ。 ○職場では力仕事は男、繊細なものは女性という役割分担が自然にできている。 ○ピアノの講師をしているが、お互いにできることをやっている。 ○考えたことがない。40歳の時結婚したので、子供や結婚には縁遠かった。今思うと結婚して良かったと思う。今は奥さんと子供がいるから、男女それぞれの性差を理解できる。平等でなく理解すること。会社も女性が多いが、女性の能力を買ってうまくやっている。とりまとめるのは女性には難しい。位置的に上にいるのに平等でないといわれるとどうかとを感じる。会社ではまとめるのは男性、女性は感情。違いはあるが良さを認め合うことが必要。 ○日立は工場が多いので、重労働は男性のイメージが多い。全ての職場で男女平等とやっていること自体がおかしい。職場環境によっても変わるのではないか。 <p>【女性の活躍推進について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○女性が社会に出て活躍することについては、特に問題は感じない。 ○男は怠け者、女性は働く。自信を持たせれば、家事もやって子どもも育てていくことができる。 ○社会に女性がいないと回らない。 ○パワハラも男性だけの集団になると多くなるのでは。女性だけでなく外国人もいるとよい。 ○女性がいた方が職場も良い。 <p>【男性の育休制度について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○出張が多い仕事なので、休暇をとらないと家のことができない。言いにくいことはある。 ○会社の中で理解してもらうことにより、運用で補っている。 ○市役所は理解されている。月1回くらい。 ○去年育児休暇をとったひとがいるがその1例だけ。話題になった。 ○最近は組合のものでも出ている。 ○自営の場合は、時間が調整しやすい。 ○仕事のサイクルが決まっている。工程をみているので、次の仕掛かりがあると休めないが、日曜日だけは休むと決めていた。 ○部下に言われたら休ませてあげる方だと思う。属性からいうと理解がある。 ○男性の育児休暇制度はあるが、休むと言えない何かがあるのではないか。 | |

- 仕事が属人的になっているので、有給をとったことはほとんどない。
- 制度があって休むことはできるが、誰かが補うことになる。職場の人員も減少してきているなかで、職場のバランスもありとることが難しい。
- PTA活動。立場が変わると見方が変わる。
- 女性はスケジュールの決め方が上手い。
- 男性に育児休暇が必要か。
- 地縁のないところで育てるのは大変、祖父母がいると違う。
- 以前、自分でやってきたことが、最近は制度として支援されているとこともある。
- 育児参加はできている人がほとんどだと思う。支援制度は弱い人を過度に守っている気もする。

【男女のワーク・ライフ・バランス、地域参加について】

- 地域の中での仲間、知り合い。学校に行くと顔見知りばかり。そうなる面白くなる。
- 会社の外に出ると隣の人は知らない。長期間社会にいたネットワークが波及のきっかけになる。
- 年に11回イベントをやっていると、企画、バックアップなど絆が深まり友達も増える。まずはやってみることが大事ではないか。
- 地域に関わりがない。たまたま手を挙げさせていただいた。最初は、勇気を出して手をあげることが必要。閉じこもっていたら終わり。勇気をもって係わることが大切。
- 特に成沢では学校行事に年間を通して参加していることが多い。おやじのメンバー以外でも興味を持っている人が多い。自分たちのグループだけでまともならず、学校と家庭のつながりもできている。このような活動をつなげていくことが重要。
- 子供の時、PTAは母親の行事であったが、今はそうではなくなっている。
- 日立に越してきて5年。最初は知り合いもいなかったが、おやじの会に入って地域につながりができた。運動会とか集まりでも子供も親も楽しい。まだ興味はあるが参加していない人がいる。それを引き出してあげることが地域の力。毎年おやじの会に入ってくる人がいる。
- 親父の会と母親たちが連携するという動きもある。成沢の場合、他の地区よりもつながりが多い。
- 親父の会の進め方。OBの方が上手かったのではないか。行事を見えるようにしていることが安心感を与えているので参加率も上がると思う。
- 子供を中心に活動方針をしっかりとすること。子供を軸に置くことが必要。

【家庭内での役割分担】

- 決められたものを分担している。
- パートや子供のことで時間が取られるようになると、自然とやるようになる。
- 基準になっているのが亭主関白の自分の親の世代だが、それと比べると変わっている。
- 自分の父親が座っているタイプだったが今は変わった。
- ゆっくりしたいときはある。
- 子供のことを思うという基本的な属性がある。
- 自分の子供以外のことを世話するのは大変。
- 家庭・子供をみるということは、逃げ場のないことなので大変な労力だと思う。
- 女性の職場に男性が入ることは難しい。女性の中に男がいるのは耐えられない。免疫がない。

| | |
|--|-----------------------|
| 実施対象 | 大学生（20代前半の未婚の女性） |
| 日時 | 平成27年12月15日 午前11時30分～ |
| <p>【男女共同参画について(自分の家庭について)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭では父が昔っぽい亭主関白なところがある。女は男を立てるという考え方。私もそうなりそうな気がする。 ○アルバイトで男の人が上に立つことが多い。男女で言いやすいこと言いにくいことがあると感じる。 ○私の家では子供たちが出かける判断は、母でなく父が許可していた。 ○父を立てなくてはいけない。ご飯が父だけ違う。 ○自営業で父母一緒に働いている。大きな事は父。細かいことは母。母も働いているのに、威張っている。平等ではないと感じる。 ○外で働いている人が偉いみたいなものがある、家事も身の回りも任せている。 ○子供の面倒は見てくれているので、ストレスは感じていない。 ○夫婦げんかをするが、仕事をしているとき。俺が金を持ってきているのでということをつつもいう。全て自分が正しいという。 ○共稼ぎで母は保育士。どっちかができないとき分担してやっている。見ていて良いと思う。 ○夕食を作るまでが母の仕事、その後は父という分担。 ○母の方が強い。家事やれということはないが、黙って聞いているタイプ。母が夜仕事に行っでご飯がないときは買ってきたり用意したりして、分担はしっかりしていないけど。父も洗い物をしてくれる。 ○共働き。家計は父が母にいくらか渡している。基本的な土台は父だが母の手伝いもしている。 <p>【女性の活躍推進について】</p> <p>〔子どもができた時の働き方〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学校までは家にいたい。子どもが小学校に入ったらパートがいい。 ○子供が生まれたら、2歳くらいまでは子供として子供も保育園に入れたい。将来的には預けて正社員として働きたい。 ○3～4歳までは一緒にいたい、その後はできれば元の仕事に戻りたい。 ○1～2歳までは自分で育てて、保育所に預けて正規職員で働きたい。 ○3～4歳までは子供として、それからは正社員で。 ○旦那さんの収入によっても変わるが、ちゃんとした収入がある人なら、2～3歳になったら、パートや正社員で働きたい。 ○小学校の低学年までは自分で面倒をみたい。旦那にもよるが正社員かパートで働きたい。 ○2歳くらいになれば子供を預けてパート。子供が一人でも大丈夫になったら正社員で働きたい。 ○2歳くらいまでは自分で育てたい。3歳から保育園か幼稚園に入れてパートで働きたい。 ○小学校上がるまでは一緒にいて、パートで働きたい。 ○小学校くらいまでは家にいたい。起用ではないので融通の利くパートで働いた方が家事と両立しやすいと思う。 ○2歳くらいまでは自分で面倒をみたい。できれば正社員になりたいが、仕事と家事と両立できる | |

自信がない。家に帰ったときに家にいるのは子供にとってよいと思う。

○小学校1年までは自分で面倒をみて、それからはパートで働きたい。

〔働きたい理由〕

○専業主婦で収入がなく、「俺の金で」といわれたくない。自分の欲しいものは自分で買いたい。

○お金が目的でなく、自分のしたいことをして満足したいと思う。

○旦那だけが社会に出て、家の中にも孤立し付き合いもなくなる。自分もストレスも溜まってしまい、うまくいくこともいなくなる気がする。生活にメリハリをつけるためにも働きたい。

○母親がパート先で友達をみつけて楽しそうにしているのをみると、自分も働いた方がよいと思う。

〔管理職になることについて〕

《なりたいと思う人》

○なりたいと思う。ずっと仕事をしていて自分の考えを貫きたい。

○自分でなりたいとは思わないが、周りからなればと思ってもらえることはうれしい。仕事を認められているという感じがする。

○責任があった方が同じ仕事でもやりがいが変わると思う。

《ならなくてもいい人》

○バイトで、同じ年頃の人がリーダーをしているとカッコいいと思うが、実績からの自信がないので想像しにくい。

○管理職や主任などは、孤独な感じがする。○○だからということで仲間はずれという感じがあるので、後ろの方で上手く入ってほしい。

○自分はリーダーのタイプではないと思う。

【育児と仕事の両立のために必要なこと】

○職場で子供を理由に休まなくてはいけなくなったときに、快く受け入れてくれること。実際にはよく受け入れられないところもある。

○子供が風邪をひいた時やどうしても休めない時に、病児を見てくれる施設が身近にあればよい。

○就活をしていて、面接官に育児休暇、男性の育児休暇について聞いた。男は出世するために働いているので、育児休暇はとっていないということであった。

○育児休暇を取ったときにブランクが出ないように在宅ワークができる制度があるとよい。

○男性の育児休暇は男の人のキャリア形成に影響がなければよいと思う。

○男性の育児休暇の取得については、冷ややかなイメージしかない。変わらないといけないと思う。

○育児休暇については、企業・職場のトップの人が100%理解しないとだめだと思う。育児休暇をとるメリットをPRすることが必要。

○イクメンみたいに浸透すればよい。

〔自分のキャリア形成について〕

○仕事にブランクができると不安。育児が終わって復帰して、数年前と状況が変わっていると対応できない。再就職のための講座があればよい。

- 家事と育児だけでも大変。それに自分の仕事となると余裕がなくなり、子供や旦那との関係が悪化するのがいや。そのためには旦那さんに子育てをしながら仕事をするの大変さを理解して欲しい。
- 専業主婦になったら、社会との関わりなくなるのではないかと不安。

【家庭内での役割分担】

- 結婚したら旦那さんと家事分担をしたい。ご飯はつくるが片付けはしてくれる等。
- 平日は私が頑張るので、休日はやってくれるかとか。
- できることはやって欲しい。できないことは求めても仕方ない。
- 得意、不得意があるので、できそうなことをやってもらえればよいと思う。

| | |
|---|------------------|
| 実施対象 | 20～40代の企業経営者(男性) |
| 日時 | 平成28年1月7日午後18時～ |
| <p>【男女共同参画の上で、事業主として意識していること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○塗装業をしている。女性が事務職であれば問題ないが、現場職が多いので男性が主になる。5年ほど前、明秀高等学校から女性を採用して欲しいという話があり、現場職として採用した(本人も希望)。最終的には結婚退職したが2年ほど働いた。会社としてトイレの問題など気を遣うが意外に馴染んでもらった。受ける側として心配しすぎしまうが本人は気にしていない。建設業=男というイメージだったので距離感があった。 ○最終的には、現場を管理できる人材を育てたいので、難しい面もある。 ○介護施設。7～8割女性。難しさはないが仕事自体は女性の方が利用者からは好まれる。結婚して退職される人が多い。育児休暇制度はあるが、30歳前後の卒業して3～4年、これからというところの人なので惜しい。男性はその期間就業しているので、そこで職責がついてくる。 ○子どもがいると夜勤ができないという希望を出される。会社でも考えるが、人材としてはグループ長を目指すので痛手。採用の時に考えてしまう。 ○薬局。9割が女性。子どもを預ける場所の問題もあり、旦那も働いていると病気の時に休まれることがあるが、仕方ないと考えている。 ○製造業。小売りもしている。11人のうち3人女性。営業部長が女性。もう一人も営業。営業としては女性男性の区分はない。 ○女性は細かい気遣いできる。 ○産休・育休制度はあるが、これから取る予定。そこでどのようになるか。戻ってきて欲しい。そのために制度がある。 ○パート3人。現場作業。手先の器用さを求められるので女性が活躍している。 ○住宅関係。社員の4割が女性。採用時にも区別なく人が良ければ採用。部署の中にそれぞれ配置している。女性のリフォームの部長がいる30歳。 ○結婚退職のリスクは考えているが、やりがい、キャリアアップを見せている。 ○重いものを持つことがある会社。女性は少ないが手先が器用なのであった仕事をしている。若い人でなく子供が大きくなり長時間働ける人を採用している。 ○育児休暇を取得したあと退職することがあるがそれは困る。 <p>〔5年前との比較〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○男女共同参画のイメージが悪くなる。 ○これまでも女性が守られていなかった訳ではないと思う。 ○業界によっても異なる。介護では女性が男性に介護されても困る。性差を理解して取り組むことが必要。 ○本人の意志を尊重することが重要。 ○中小企業の方が融通は利くが、大企業と同じような手当をつけることが難しい。 <p>【男性の育児休暇について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会社としては安定した雇用力が欲しいのであって男女ではない。バランスが取れているか。女性 | |

は特有で絶対必要。何をもって平等とするのかは難しい。

〔育児休暇のために欲しい制度〕

- 休暇中の給料の保障。
- 男性から見た感覚では女性にだけという感じもする。
- 産休・育休の間に人を確保する必要がある。1年だけ働く場合人材派遣を雇う場合。代替えの人を確保するための支援制度があると良い。
- 女性の成功事例は少ない。同じようなコミュニティがあれば女性も参加しやすいのではないかな。

〔子供が病気の時の対応〕

- 職場では、従業員の定員が決まっているので、交換勤務でお互い様でやっている。
- 子育て中の女性が働くための保育費の補助があると良い。
- 制度を調べるのが難しいので、商工会議所に聞いてはじめて知ること多い。問い合わせ機関も分からない。
- 保育料が高いのでそれで働くことを辞めている人もいる。パートの手取り半分必要になる。するとやる気の問題になる。
- 本当に働いてもらいたいなら、保育料を安く保育時間を長くすることが必要。
- 働き手が減っているのに女性に頑張って欲しいが、あまり手厚くやると中小企業にとって雇いにくい環境になってしまうかもしれない。法律制度を盾にとられることもある。そのあたりのバランス感覚が難しい。
- 女性が働くことに問題はないが、若者の力を発揮する方にも力を入れる必要がある。

| | |
|---|---------------------|
| 実施対象 | 起業経験を持つ女性 |
| 日時 | 平成28年1月12日午後13時30分～ |
| <p>【男女共同参画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○東京からこちらに戻ってきて物流運送関係の会社に経理事務として勤めたが、経営者が若く新たな取り組みを行うため、様々な資格を取得する機会を得て、会社でも様々なことを任された。おかげで、企画力・提案力が身についたが、当時肩書きは経理事務員扱いであり、銀行の融資担当者などに相手にしてもらえず苦労した経験がある。男性は縦社会の中で資格や役職等、名刺の肩書きを大事にし、人を判断する傾向にある。女性が働きやすい環境をつくるには、男女の違いを理解しておく必要はある。 ○今まで一番言われて腹が立った言葉は、「女性が社長というだけで面白くない」と言われたこと。また助成金や融資を受けようとする、「女の人はそこまで頑張らなくていいのでは」と言われた。最近は環境が変わり、日立は女性の起業をバックアップしているが、最初の頃は手続きを聞きに行っても「無理だよ」と言われたりということもあった。 ○女性が経営をしていると、妊娠・出産している間はペースを落とさなければいけない。引継ぎのために余分な人件費もかかる、本来すべき仕事が減速する、また仕事に復帰しても子どもが幼稚園、小学校と進んでいくときにまた変えていかなければならない。女性が代表となると、余計な経費が3倍くらい掛かるような気がする。 ○自分が休んでいる間やってくれる人がいないと仕事がこなせない、それが駄目だとなると夜中まで無理に仕事をして埋めなければならない、そうすると子どもではなく仕事が優先になってしまう。かといって、誰かに頼むと人件費が馬鹿にならない。 ○知り合いに建築関係の女性の方がいるが、打ち合わせ等にいくと自分が役職を持っていても、相手は若い新人の男性に向かって話してくると怒っていた。男性社会で起業されている方はみんなそのようなことで苦労されているのではないか。 ○起業の際に、銀行に融資をお願いに行ったが、自宅で今までやってきた実績を説明したにもかかわらず、最初はあまり相手にしてもらえなかった。女性の操業にも優しい環境、対応が必要なのでは。（男性の意識改革） <p>【男女差を感じたこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○以前市役所に勤めていた。スポーツで入り、自分でもクラブを立ち上げるなどしていた。妊娠・出産に伴い普通に休暇をとっていたが、3人目のときに予算を確保できていないと言われ、辞めざるを得なかった。色々な事が重なり辛い思いをした。その時に夫は多忙で手伝ってはくれず、自分で持っていたスポーツクラブもあり子連れで行っていた。ある日夫婦げんかになり、「お前はそれが大事なのか」と言われたが、命を預かっているため、自分にとっては大事なものであった。しかし、けんかを見ていた子どもたちは逆に後押ししてくれ、子どもにそんな思いをさせているのかと思い、一切やめて専業主婦となった。今はその反動で楽しんで仕事をしている。 ○パートで雇った方に2歳と4歳の子どもがいて、よく熱を出し、預かった先から連絡が来た。彼女は一職業婦人として頑張りたいという意向があったが、結局子ども優先で辞められた。女性の意向を踏まえて期待し、様々な技術を教えたが、半年持たなかった。自分が女性ということもあり、働きたい女性を応援したいという気持ちはあるが、子どもは母親を求めるという点で、女性 | |

が働くことには永遠の課題があり、そこをどう克服するかが問われる。教えることにもお金はかかり、せつかく覚えたところで辞めてしまわれると、次に来た就職希望の子持ちの方にも危惧を持たざるを得ない。

- 子育ての時には起業していなかった。一番大変だったのは、子どもが小学1年生の時。子どもが学校に上がる時の壁があると思う。看護師をやっていたため、保育園で預かってもらってはいたが、熱があると預かってはくれない。また保育園は7時くらいまで預かってくれるが、学童は遅くまでは預かってくれない。パートか辞めるかの選択を迫られることになり、キャリアを捨てるしなければならなかった。資格をとって、子育てのために起業することにした。辞めないで続けるためには起業するしかなくて独立した。
- 生涯未婚率が上がっている中で、一緒に働いている同性の中でも、独身と子育て中のスタッフがいる。子育て中だからといって、子どもに合わせて休むのが当たり前であると考え、不公平感が生まれる。独身の人には、将来の不安など、子育てにはない悩みがある。心健やかに働くためには、お互いの情報提供の場、理解の場が必要ではないか。男女だけでなく同性の中でもお互いの理解と歩み寄りが必要。
- 子どもを預けるのに、保育料が高すぎる。働いた以上のお金が掛かってしまう。時間保育で預けると、1時間1,000円とかになってしまう。パートの場合、1時間1,000円以上稼ぐことも困難な場合がある。

【育児と仕事の両立のために必要なこと】

- 山口からこちらに嫁いできて、誰も頼れる人がいなかったため、2人目の子どもが生まれる時には、ベビーシッターを1週間頼んでお産をした。3人目を妊娠した時には動けるうちに運転免許を取得に行った。2人の子どもをどうしても連れて行けない時には市に登録しているベビーシッターにみてもらい、大変ありがたかった。現在は、嫁が看護師であるため、自分が苦勞した分、孫の面倒をみてサポートしている。自分が苦勞したことを若い母親たちは苦勞していると思う。

【女性が活躍推進について】

- 子どもが未就学でも働かなければならない家庭もあり、子育てをバックアップするところが地区別にあってきめ細やかに対応できるようになると良いのではないか。また、昔はベビーシッターを頼む際にも依頼している側の責任として考えられていたが、今は受託する側の責任が重くなっているため、預かる側も、一人ではなく複数の対応で考えていくべきではないか。登録制の何かを考えていかなければならないのでは。
- 社員を確保するためには、子どもの問題が不可欠で、保育料などの問題で預けにくいこともあり、子どもの目の届くところに居られるようにするには、託児施設付の会社にすることも考えなければならない。
- キャリアを積んでいる人を人材として確保したいので、今後のことを考え、空いているスペースに託児所を設けることも社員と相談して検討している。売り上げに直結するわけではないので、全部の企業が託児所を持つことは困難な中、母親と子どもを離さないで自立させることを考えている企業に対して、行政側の手厚い支援、政策があるとよいと思う。
- 県の「子育て応援宣言企業」登録という制度があつて登録しているが、宣言するだけで、自分の活動報告書を出すだけ。特に行政からの助成などはなく、企業のイメージアップ、PRになると

いうだけ。もう少し制度内容を充実する必要があると思う。

- 県や国から職業訓練の委託を受けており、その中で子育て中の母親が資格をとって就職しやすくするための職業訓練（3～4か月）の打診があったが、その際に託児付という条件があり、託児の経費は多少の上乗せはあるが基本は企業に丸投げとなっている。企業で託児施設や人を確保するとなると、経費が大きくなり、受託金額と見合わないことになってしまう。仕事の内容は良いと思うが、引き受けることを躊躇してしまう。
- セミナーなどがあるときに安く預かってくれる有償の団体もある。（団体によっても金額が違う）
⇒そのような情報がいきわたらないことも課題。情報の開示が必要。
- 政府は女性推進といっているが、そういうところで何年も何十年も難しくなっている。
- 託児所付きにすべきではあるが、大手企業はできるが、中小企業では負担も大きい。やはり、地区にきめ細やかな託児制度が立ち上がってくれることが理想。
- 今の時代、子どもを預かるのは大変で、塾でも事故があった時のための保険などに入るだけで年間 70 万かかり、そのほか塾で受験を落ちた場合に訴えられたりするということになりリスクにも備えなければならない。子どもを預かる事にはリスクが伴う。
- 幼児教育で親と子が共に通う塾を経営しているが、親子一緒に通う教室でも保険の負担は大きい。
- 看護師の友達の中では、子どもがいない人が多い。産める環境になかったという人が多くいる。
- 情報が少なすぎる。どの団体が安く預かってくれるかなど、普通の人は知らない。ネットで検索するにしても、言葉がわからないと検索できない。助成金・給付金なども社労士などと契約していないとわかりにくく、知っている人だけが得をする仕組みになってしまっている。
- 預ける環境があっても、意識が変わらないといけない。子どもを預けることについて「かわいくないから預けている」と言われたり、ずっと罪悪感がある。色々な人に「すみません」と言い続けて、子育て以上に気疲れがする。昭和の考え方が続いていて、考え方が変わるまであと 2 代くらいかかりそう。まずは気兼ねなく子どもを預けることができるような意識改革が必要。
- 子どもが病気のときに預ける病児保育というものがある。（少ないが）⇒日立市の場合は、病後児保育（4か所）なので、病気の後に預けられるというもの。
- 横浜のほうでは、病児保育でも 3 歳すぎないと預けられないということもあるようだ。
- 介護保険にお金をかけるなら、育児保険を設けて、育児にお金をかけるべきなのでは。
- 折半で生計を担っていても、男性の仕事は家族のためだけ、女性の仕事は自分のため、趣味だと思われがちなので、やはり意識改革は必要。
- 近年、イクメンという言葉がでてきて、男の人が育児をやることに何か補償をつけてあげればどうか。
- 働くことに理解のない男の人といることが一番大変。
- 周りには起業したことで離婚した人も多い。主人と子どもの面倒をみながら仕事を持つのは無理という意見も聞く。

| | |
|--|---------------------|
| 実施対象 | 大学生（20代前半の未婚の男女） |
| 日時 | 平成28年1月22日午前10時30分～ |
| <p>【男女共同参画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○女性も社会進出しようとしている。男は仕事、女は家庭でなく両方社会進出していこうという中で労働時間が長いことが難しい要因ではないか。 ○家を守るのは女性、男は仕事というのは昭和までの古い考え。政府も女性の社会進出を目指しているが実現できていない。社会に出ていないので、雇用についても調べたが、指導的地位の女性がアメリカに比べて低く30%くらいである。 ○男女共同参画は計画を策定していて結果は伸びている。周知はされているが、社会に出て職を得た後の待遇が確立されていない。内閣府のアンケートでは、就職後の昇級に男女差がある。 ○社会進出したくないと考えている。家では母親は専業主婦。働きたいと思っても家のことがあり働きたくても働けない。それがなんとかなれば考える。 ○社会進出するということであるが、狙いがよく分からない。社会進出したい女性が阻害されないならばよい。社会に出たいときに障壁がないならばよい。男女共同参画の取り組みが何のためにかよく分からない、未来像が分からない。 ○子供が生まれた時には親がないといけない。どちらかが家にいないといけないと思う。情報工学なので、ITを使えばハウスワークができる。男女で分担して子供が幼稚園に入ったとき、待機児童の問題もあり、自分たちが男女共同というよりも国から起こしてもらって。企業も含めて取り組むことが必要。 ○女性の社会進出は、女性の好きなようにというイメージある。自分の周りでも就職している人が多い。出世を考えるとそうでもないなと思うので課題かなと思う。 ○疑問に感じる。何故、女性が社会に進出できるようになったのか。昔は家にだれかいけないといけないというのがあった。親の介護も昔に比べてよくなった。家事についても家電の発達によって家事に要する時間が短くなった。留守番もする必要がなくなった。そういう背景で昔に比べると家にいる必要がなくなったのではないか。 <p>【女性の活躍推進について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○女性が働く環境は整っていない。働きたければどうぞという感じがする。 ○家庭を持っていて夫が稼いでいけばよいが、シングルマザーの問題もあり、女性と男性で待遇が違うので、シングルマザーはもう少し優遇する措置が必要。 ○男女係わらず優秀な人がいる。今は男性だけが女性にも優秀な人がいれば環境を創るべき。 ○周りの人は就職しているが、早く結婚したいと思う。キャリアを積みたい人とパートを指向する人もいる。無理矢理社会進出は望まない。 <p>〔自分の配偶者が働くことについて〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○押しつけるつもりはない。働きたいならどうぞ。パートでもキャリア、キャリアで自分より稼げるなら家のことをやってもいいと思う。 ○働いて欲しい。パートの方。そんなにキャリア積んでという働き方でなく、家のことをやって欲しい。 | |

- シングルは積極的に働いて欲しいと思うが、配偶者なら子供の面倒を見て欲しい。
- できれば働いて欲しい。やりがいを持って働いて欲しい。仕事を楽しくしてもらうのがいい。人生楽しそう。

【家庭内での役割分担】

- 土日はやるが、平日は遅くなるとやりたくないのをお願いしたい。
- 子供ができるまでは一緒に働いて、子供ができたら奥さんに家事育児をして欲しい。手が離れたら働くというのが良い。
- 掃除はやりたい。洗濯も機械でできるが料理はやって欲しい。
- 家事はあまりやりたくない。分担してやりたい。

【男女のワーク・ライフ・バランス、地域参加について】

- 自分の欲求を満たすために働くと考えている。
- 似たような感じ。仕事一筋でなく趣味を楽しみながらバランスよく。仕事だけで生きていくつもりはない。
- 趣味のために働きたい。
- 達成感を感じるくらい働きたい、
- 40代くらいまではばりばり。その後は体力によるがバランスをとって働きたい。
- 稼げるお金が十分ならばそこまで一辺倒にならなくてもよいと思う。
- ばりばり働いて趣味は息抜き 老後はエンジョイするのが理想。
- ばりばりは働きたくない。趣味と仕事分離しているわけなく、スキルアップのために仕事をやっている。

〔ライフプランをもっているか？〕

《持っている人》

- 誰かいると寂しくないと思う。
- 両親に子供、孫を見せたいと思う。
- 年老いてから一人は嫌。

《持っていない人》

- 気の合う女性とあって一生暮らすというイメージが持てない。
- 恋人と外で合うのはいいが、家にいるのは嫌。他人と生活するのが無理だと思う。
- 結婚にとらわれなくてもよいと思う。フランスをみていると結婚しなくても良いのではと感じる。
- 相性だと思うのでいけばいいが、ストレス溜めてまで暮らすつもりはない。
- 結婚に興味はあるがリスクを考える。離婚もある。子供も欲しいが考えてしまう。

《不安なこと》

- 突然のリストラ。収入がなくなること。
- 日本の経済が悪く見通しがたたない。
- 子供のリテラシー。40年でもっと進化するので道徳的問題が心配。
- 収入。自分の社会も年金も不安である。

- 一人でやっていくなら収入源の心配はある。
- 生き甲斐。仕事が楽しくないとき、何に楽しさを求めるか。
- 病気。痛くなく死にたい。
- 仕事は何とかなると思うのであまり気にしていない。

【男女差を感じたこと】

- 今年から就職するが。男子9名、女子1名で工学部系なので女子の数は少ない。能力が同じなら男をとるといわれた。理由は続けられるから。
- 男女差。目線の違いは感じる。男性は福利厚生でも保険に目が行くが、女性は復職などに目がいくように感じる。
- あまり普段の生活では感じない。
- 姉が営業の仕事をしている。取れば取るほど給料が上がっている。頑張っている方なので、女性が活躍できると思うので感じたことはあまりない。
- 企業説明会で、女性で開発とか実務職は少なく人事が多い。
- 姉が看護師。昔は看護婦から師になっているが、女性が多い。看護師になりたいが女性が多いという見えない障壁。男しか働いてはいけない入りにくい仕事をなくしていった方が良い。
- 身内ではないが、テレビで思うのは女性首相があまりいないこと。根底にはトップは男性という意識があることを感じる。
- 女性専用車両。差をなくすために作られた制度が逆効果。行き過ぎている感じもある。
- そもそも違うのだから、性差があってもよいと思う。

| | |
|--|------------------------|
| 実施対象 | 40～70代のコミュニティ活動をしている男女 |
| 日時 | 平成28年1月22日午後7時30分～ |
| <p>【男女共同参画について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○男女での差は感じない。自分の家庭内では別だが、社会における違いはない。 ○家庭での主導権は女性が握っている。 ○平等・不平等ということではあまり感じないが、男性は力仕事に向いている、女性は細かいところの仕事に向いていると感じるので、そういう部分は男女で差があってもおかしくないと思っている。 ○平等ではない部分はまだある。給料の面や働き方など。だいぶ変わってきているとは思いますが、まだ差が残っている。向き不向きの問題は別として、女性で優秀な人はたくさんいるが、なかなか上へ行けないというのがある。家庭では女性が強いが。 ○交流センターで職員を雇用するとき、女性が（柔らかい関係で）ほしいが、書類には「女性何名」というようには書けない。けどやはり仕事の面では女性にふさわしい仕事というものもある。男性ではゴツゴツしてダメだけれど、この仕事はやはり女性に、というものがある。やってはいけないことだけれど、ある面では必要性は残っている部分がある。 <p>〔コミュニティ活動における男女の役割の違い、女性がリーダーシップをとることについて〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現在、会長は男性、副会長は男性2名と女性1名。いままでもずっとそうだった。この学区では女性が会長になったことはない。 ○文化協会は女性が会長になった。 ○女性が会長になることは全く問題ない。だが、やりたいという人がいないのが現状。女性だからダメということは言わないので、やりたい人はどんどんやってほしい。 ○女性としては、会長をやってくれと言われても、きっと前例がないので引き受けられない。仕事が大変だし、自分には能力もないと感じる。 ○組織の中では、女性の立場でものを見て仕事をする立場も必要と感じる。 ○女性が上に立つことに抵抗を感じる男性がまだ多くいる。どこの地区でも無言の圧力がある。 ○能力がある人であれば、男性も女性も関係ない。特性に合った働き方をするのが一番いいと思う。ただ、女性は出産・子育て等があるから大変だと思う。仕事を任せる時に、どうしても仕事から抜けてしまう期間がある、それでも仕事をさせればマタハラになってしまう。だから女性に任せるのを避けてしまう。そういったことを除けば、特性や資質に合った仕事をするのがいいと思う。男だから、女だからという意識はない。 <p>〔コミュニティが求める人材〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今の若い人たちは女性にしても男性にしても、個人主義な人が多く、コミュニティ離れしている。その中で、新しい若い人を探しながら、30年40年かかってやっている。それを打開しようと、子ども会やPTAなどの若い人の活動から少しずつコミュニティに入ってきてもらうようにしているが、出産や子育てなどがボランティア活動においても継続の妨げになる。だからある程度子育て等が終わった年代が中心になる。 ○私は要請を受けてコミュニティに携わるようになった。当時同居していた母の敬老会に出たのが | |

きっかけ。福祉関係を担当している。

- 私は、こういう仕事があるという紹介を受けて、福祉に関することは好きなので、やってみたいなど感じてコミュニティに参加するようになった。
- 仕事をしながらコミュニティ活動に関わっている人はたくさんいるが、女性は少ない。
- 自分は小学校のPTA役員になったことがきっかけでコミュニティに関わるようになった。同じようにしてPTAから新しい人を入れたいが、今の若い人はあまり入ってこない。子育てに関する活動をしていて、参加者に「これだけ地域の人に見てもらっているんだから、子育てが一段落したら今度はあなたがやってね」といつも伝えているが、入ってきてくれる人はいない。
- みんなが入ってきやすい環境・雰囲気作りは我々の課題でもある。
- 30~40代は子育てをしていて、一段落するとまた仕事に復帰してしまう。50~60代まで仕事をすると、今度は年だからできないと言われてしまう。
- コミュニティ活動を長年やっていて、何でも自主的に動ける人が多いから、新しく入ってきた人はどうしていいかわからなくて、なじみにくいかもしれない。新人にも流れをもっと教えてあげられるようにしたい。

【男は仕事、女は家庭という考え方について】

- 家庭は大事。家庭が一つの最小単位として成り立っていないと、何事もうまくいかない。どちらかと言えば、子どもとの関係からいっても、女性が家庭にいる方が良い。
- 日本の民族の成り立ちからいっても大事なことだが、なかなか難しい。父親一人で家庭を守るのか、父親・母親2人で守るのか。男女共同参画、女性がもっと働けるようにといっても、家庭が基本になっていなければならない。
- 女性はどんどん外に出て働いていいと思う。自分で選択するべき。でも最近は、できれば家にいたいという女性も増えていると思う。専業主婦を希望している人も多いが、社会が変わり、一人だけの収入で暮らすのが大変になってきている。
- 女性が仕事にやりがいをもって、どうしても仕事がやりたいと思っているというよりも、子どもが小さい時は家で面倒を見て、ある程度大きくなったら子どもにお金もかかるから、まずは収入が必要だから働くのだと思う。実際自分の家でも、子どもが小さいうちは妻が家にいたが、ある程度大きくなったらパートに勤めるようになった。収入を増やすうえでは、働かないとどうしようもないのだと思う。
- 自分の家の嫁は、子どもが大きいので仕事を持っている。
- 自分も経済的なことからパートで働いた。家庭を維持するためには経済面の基盤がないとできないことであり、働くのは仕方ない。娘は共働きで、嫁は専業主婦。どちらが良いということではない。仕事をしている娘も、家にいる嫁も、それぞれに楽しんでいる。男女共同参画といっても、人それぞれ。
- 小さい頃の夢を実現できたのに、夫の転勤で土地が変わったパターンの生き方をしている。女の人は思いがけないことで、自分の目標を達成しても道が変わってしまうということが、強烈な人生体験。新しい土地でも今までの仕事ができるかということ、環境が変わってしまって果たせない。しなやかにその土地にあっていく柔軟性が必要で、女の人は、頑張っただけで夢を実現しようということだけでは生きていけない。男女平等であれば、逆に女性の転勤で男性が夢をあきらめることがあり得るのかもしれない。私は結婚した時にはそういうことを考えていなかったもので、女性は思

いがけない要因の中で生きていくということが自分の中では大きい。まず子どもをどう育てたいかというテーマを2人で話し合っ、仕事はその次。子育てのために仕事をするか、家で子どもを見たいのかという選択をしてきた。ただ、仕事をする女性は、子育てだけの女性よりも案外楽だという印象がある。働きながら子育てをしていると、本当は子どもと関わっていないけれど、仕事と両立していて大変ねという褒め言葉を貰える。専業主婦は、仕事もしないで家にいるんだからあたり前という視線の中で過ごしていると思う。旗を振って、何が何でも女の人は平等に働くべきだというのはあまり賛成しない。一律の方向性ではなく、働きたい人、家にいたい人、それぞれが思うようにできればいい。

- 会社に5年間勤務し、女性は結婚する時は退職があたり前という時代で、そうしてきた先輩を見てきたので、受け入れて結婚を機に専業主婦になった。しばらく家にいて、下の子が幼稚園の年長の時から働き始めた。パートの仕事をしつつ、家庭のことを一番に考えて生活している状況。
- 妻は専業主婦。結婚するまでは働いていたが、結婚を機に退職した。仕事を辞めたがっていたので、これ幸いと専業主婦になった。
- 同じく、妻は結婚と同時にそれまでの職を辞めた。子供が中学に入る頃からパートで働き始めた。

〔女性の再就職の困難について〕

- 特に感じたことはない。
- 再就職後は、自営のような形で10年務めた。家を離れたくなかったのもあり、在宅で働いた時期もあった。離職前と同じような仕事を探していたかということ、わからない。

【家庭内での役割分担】

- 勤めていた頃は何もできなかったが、定年後自由になってからは、自分の趣味とあわせて、家庭の仕事を積極的に分担してやっている。妻も自由に過ごしている。子育てをしていたような時期は仕事で家にいなかったから、妻に十分やってもらった。今は当然分担する。
- 定年してからは、農家としての外の仕事は全て自分がやって、妻は家の中のことをしている。掃除や洗濯など、自分がやってもいいのだが、妻は自分でやらないと気が済まないタイプで、洗濯の干し方やコップ一つのしまい方も、自分がやるとおりでないと嫌がる。自分がやってもやり直すので、仕事が増えてしまう。手伝いようがない。
- 家事は、自分が食べたいものは作るが片付けはしない。他は一切しない。
- 母の介護があったので、その間のお昼の準備や洗濯は（夫が？）やっていた。今は息子夫婦と同居だが、嫁は仕事をしており、夕ご飯の片づけは全て息子がやっている。
- 夫が現役で働いている頃は時間もなく、自分もパートで働いていたが家事一切は自分がやっていた。定年してからは、洗濯は全部やってくれるようになった。食事の支度もほめるとやってくれる。あれが美味しいね、というと作ってくれる。食事の片づけはすべて息子がやる。
- 男の人は「分担」が嫌いだと思う。自主的に、こちらからいうと気まぐれな手伝いはあるが、分担というと拒絶する。夫からすれば、自分はこれもあれもするようになったというが、主婦からするとそれは分担ではない。分担だというと、それもやらなくなってしまうタイプ。味噌汁作るようになったらとんでもない、じゃあいつも作ってくれるかということ、そのプレッシャーは大きくて尻込みしてしまうのではないかと思う。